

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3F
TEL 052-871-5433
FAX 052-871-5618
URL http://www.aioren.gr.jp
発行人 樽松佐一
第131号 2004年6月10日

愛労連第31回定期大会

■と き 7月25日(日)
9:30受付 10:00開会
■と ころ 名古屋市
中村区役所・講堂

トヨタで重大死亡災害

1兆円の史上最高益のウラで安全対策が犠牲に



5月12日午前7時5分ごろ、豊田市のトヨタ自動車工場で、社員の鹿島啓資さん(33才)がプラスチック成形用のプレス機に挟まれ死亡するという重大災害が発生しました。奇しくも同日の朝刊では、前日の11日に同社が発表した2004年3月期の連結業績(米国会計基準)で、最終利益が前期比54・8%増の1兆1620億9800万円と4期連続で過去最高を更新し、日本企業で初めて1兆円の大台を超えたことを報道する記事が踊っていた日でもありました。史上最高益のもとでトヨタの職場はどうなっているのか、同社に働く人たちに話を聞きました。

プラスチック製バンパーの成形機に挟まれ死亡

亡くなられた鹿島さんは成形部の保全係で機械の保全、修理を仕事としていました。事故が発生したのは、プラスチック製の乗用車バンパーを製造するための成形機の中でした(右下の図を参照)。

キズとバリ
二つの不具合

この日、同成形機には二つの不具合が発生していました。ひとつは製品であるバンパーにキズが入る異常で、もう一つはバンパーにバリ(型枠からプラスチック溶液がはみ出したもの)

が多発するというものでした。製品にキズが入ることから現場の作業員は原因を調査し、成形機から製品を取り出すアームに異常があるの図を参照。

あるはずの安全装置がなかった… 効率・もうけ優先で起こった事故

今回の事故は、同時に2カ所の不具合が発生するという偶然も重なりましたが、それ以上に多くの問題点がありました。

そもそも保全作業は2人以上で作業することになっていましたが、なぜ鹿島さんは1人で作業をしていました。事故以降、保全作業は複数で行われてい

ます。さらに大きな問題は、人為的なミスがあったとしても、それを防ぐための安全

装置が付けられていなかったこと。通常、工作機械には事故を未然に防ぐ安全装置が付けられています。しかしトヨタでは、自社で安全装置を付けることになって、その分だけメーカーに安く納入させています。

今回の成形機は最新式のものでしたが、旧型には設置されていた安全装置が付けられていませんでした。

旧型の場合は、成形機内に安全マットと呼ばれる安全装置が付けられており、

が現場に到着し、成形機内に入り点検作業をしていました。鹿島さんに気づかず起動

戻ってきた作業員はアームの修理を終え、制御板に移動し、鹿島さんが成形機の中にいることに気づかずに成形機を起動させてしまいました。

成形機の中にいた鹿島さんは、動きはじめた成型機に上半身を挟まれ、作業員は成形機をすぐに停止させましたが、頭や胸などを挟まれ死亡しました。

安全を最優先にできない過密労働

また、しっかり安全を確認しながら作業を進められる余裕がないことも挙げられます。通常、成形機などの機械内部に立ち入る場合は、入っていることを他者に知らせるために制御板のところに札を掛けています。今回の場合も2枚の札が掛けられていたのですが、作業員は厚い手袋を2枚重ねていたため、2枚の札があることに気がつかず起動スイッチを入れてしまいました。起動時の安全確認や合図の徹底なども不十分でした。

しかし、作業員のミスだけでは済まされない問題があります。この成形現場では日常的に製造が遅れている、製造ラインのスピードに間に合わず、事故の1ヶ月ほど前にはラインでバンパーを取り付けられず、未装着の車がズラッと並ぶことが2、3日続くこともあったと言います。「ラインを2分間止めたら500万円の損」などと、日頃から追われている状況の中で実際に製造が遅れていけば、安全に対する配慮も十分にはできなくなってしまっています。

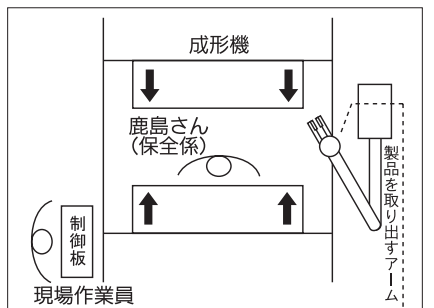
背景には「中国に参ったと言わせる」非常識なコストダウンが

トヨタの空前の最高益更新には、これまで下請けに犠牲を強いてきた一律30%

のコストダウンがあります。さらに現在トヨタがすすめているBT2(ブレイク・スルー・トヨタ)内製競争力の強化)では、トヨタ内部でのコストダウンを猛烈にすすめるようになっています。

同社の白水宏典副社長は部課長クラスを対象にした社内講演会でBT2について、「今までの非常識を常識に3ヶ月を3週間で実

施「中国に参ったと言わせるような生産体制をつくる」などとはげをかけています。しかし職場ではあまりにも無茶なとりに「中国よりもトヨタ労働者が参っちゃう」と言われています。こうしたもので保全部門では「保全レス」を合言葉に、保全コストの50%ダウンがすすめられており、このもとで発生した重大事故でした。



- (1) 作業員は製品にキズが入ると連絡を受け、原因を調査した後に、工具と部品を取りに行く。
- (2) 製品にバリが出る時連絡を受けていた保全係の鹿島さんは、作業員が離れている間に成形機の中に入った。
- (3) 戻った作業員はアームの修理を終え、成形機内に鹿島さんがいることに気づかずに成形機を稼働させ、鹿島さんは成形機に挟まれた。

(い)「イラクも歩けば弾に当たる」(小中陽太郎)

日本ペンクラブ編集の「それでも私は戦争に反対します」には45人もの作家が文書を寄せました。「バカの壁」でバカ売れしている養老孟司氏も「拜啓小泉首相様」で「小泉首相は国難に殉ずることへのお気持ち、特に強い」が「国に殉じた人を想う気持ちは、国に殉ずることを進めることとは違います」と諷言しています。奥大使が亡くなった時に流した涙は「感動」の涙だったようです。▼当の本人はサミットで武力行使を行う多国籍軍への自衛隊派遣まで表明する始末です。ジャーナリストの橋田さんが亡くなったのも泣かなかった首相も自衛隊員が攻撃されて死んだら「感動」して涙を流すかもしれない。国全体を「戦争国家」にするため来年にも「憲法改正」草案をまとめるよう自民党に指示しています▼それにしてもサミットに間に合わせるために野党議員の質問時間を打ち切ってまで年金改悪法案を強行採決するとはたまげました。野党に質問させないなら国会は不要です。憲法違反も甚だしい。あれほど怒っていた民主党も週があげると「関係修復、有事関連法案成立で合意」と腰砕け。参院選では年金改悪・有事法案賛成議員をたたき落としましょう。ここで一句(ろ)「論ずるより強行採決」。(K)

「誰がやっても変わらない」... だけどガマンできない現実もある

6月24日公示、7月11日投票でたまたかわれる参議院選挙について、若者たちはどう捉えているのでしょうか。労働組合の青年部で積極的に活動する2人の役員にまわりの青年たちの反応も含めて話してもらいました。

参議院 選挙



福祉保育労
川口 恭子さん

市や県より、国会はなんだか縁遠く感じます。投票はするけど「本当に変わるのか」と半信半疑。
周りの友達は最近の国会の様子を見て怒りよりもあきれいています。「誰がやっても変わらない」「俺たちが投票したって圧倒的多数の今の議員を支持する人たちはかなわん」とあきらめの声です。
福祉では措置制度が崩され「競争するから質の良いサービスが提供できる」「利用者が増える」と、体裁良く企業が参入できるようにしました。福祉を必要とする弱い立場の人たちだからこそ、みんなの力（税金）で公的に守っていくのです。お金がかかって当然の社会福祉から予算を削り、国が責任を放棄するのは許せません。「あんなら議員の私利私欲のために税金はらうんじゃないか」というのが本音です。
「政治はわからんけど、今の日本はおかしい」と思う青年はたくさんいます。1人でも多くの人に声をかけ国民のことを考え、いっしょに頑張っていける私たちの代表を送り出したいと思っています。



愛高教
竹原 直樹さん

最近の若者は「政治に関心がない」と世間ではよく言われますが、残念ながらそのとおりだと思います。
若者が政治から離れていくのは当然です。年金問題の話題がニュースで流れるこの頃、とても考えられない行動ばかりする政治家たちが目につきます。そのことについて高校時代の友人は「信じられない」と言い、他の友人に聞いても「誰に入れても同じ」「結局は変わらない」との悲観した意見しか出てきません。
しかし、別の友人がこんなことを言っていました。前の県知事選挙で、「大型公共事業に反対する候補には少なくとも希望は持てた」と話してくれました。やはり希望を持っている政治家がいることが大事ですが、いらないから変わらないと考へ、諦めるのは嫌です。

だから、選挙がどんな結果になろうとも、何かできることをしたいと思っています。僕らができること、それは自分の一票に諦めではなく希望を持って投票することです。

必ず投票し憲法をかかった選挙

「高齢化社会で年金財政は破綻必至」といい、「1000年安心」と言われた年金「改正」案強行をめぐって、国民が怒っています。
閣僚や与党幹部の年金未納が次々に発覚しただけでなく、参議院で「保険料は上げるが2017年には1万6900円で固定する」「給付は現役世代の手取り収入の5割を確保する」という2つの約束が全くの嘘だったことが露見。「1000年安心」と思うのは当然で「心」どころか「一寸先は闇」と分かったのに、政府与党が「白紙に戻して審議し直せ」の要求を無視し、共産、社民、西川くらしと憲法がかかった選挙を強引に採決を強行したからです。「政治なんて信じられ

はやく全面返還を 普天間基地を人間の鎖で包囲

愛労連副議長 伊豆原 直



5月16日午後2時から普天間基地包囲「人間の鎖行動」が行われました。県民大行動実行委員会が主催したもので、沖縄は30度を超す暑さであったが市民や平和団体、労働団体など1万6000人が参加し飛行場(22・5km)を手でつなぐ人間の鎖で包囲しました。名護市辺野古沖への代替え施設建設にむけ作業が進む一方で、日米合意の「5

相次ぐ異常・不当な 弾圧事件

東京・社会保険庁の堀越明男さんが休日政党内閣の機関紙を配布したことをもって国家公務員法102条・人事院規則「政治的行為」違反であると6カ所を自宅捜査し、逮捕、拘留、起訴するという事件が3月に警視庁公安部によって引き起こされました。数ヶ月の尾行捜査など、20年来の異常かつ不当な事件です。
昨年の5月には、大分県豊後高田市の大石忠昭市議会議員が通常の後援会ニュースの配布を公選法違反の文書配布、戸別訪問であるとして不当逮捕、起訴するという事件がつくられました。
さらに、この1年に平和行進のポスター張りや駅頭での要求宣伝行動、マンションなど集合住宅でのチラシ配布にも警察の不当な干渉や逮捕事件が起こされています。

憲法が保障する言論・選挙・ 政治活動の自由を守ろう

国民救援会愛知県本部 事務局長代行・副会長 稲生昌三



70年代から公務員法・公選法を口実とした警察の干渉と弾圧が相次いで起こされ、200余件の司法判断を求める裁判と自由と人権、民主主義を守るたたかいが繰り返されました。全国で「違憲判断」「勝利的判決」を切り開いたたたかいかも数多くつくられ、こうして不当な弾圧を許さない力が蓄積されてきました。支配勢力と権力は、彼らの矛盾と破綻が深刻化し、広範な国民の怒りと抵抗に直面したとき、悪法の強行、謀略、権力犯罪、干渉と弾圧によって巻き返そうとすることを歴史は示しています。

一昨年の9月、昨年の9月と佐藤警察庁長官が全国の警備部長会議で「国の公安を害する恐れのある対象勢力の情報収集の推進・危険性を減殺させる上で事件検挙が極めて効果的」「国家の利益優先の治安対策強化」の訓示を行ないました。これは公務員の憲法遵守、国民の基本的権利や生命の安全を守るといふ見地を無視して、監視と統制、強制的警察行政を行なうというもので、この訓示がその後の事態を示すものとなっています。「戦争をする国づくり」を推し進めるため、選挙を前に見せしめにして違法と違法、異常な捜査で国家公務員を従わせ、国民の反対の声を封じ込めることを狙ったもので断じ